

2市合併、市民ホール、バリアフリー化など質問

「一市合併（小田原市と南足柄市）白紙になる



吉田ふくじ議員

吉田議員は、まず初めに小田原市と南足柄市との合併問題について質問しました。小田原市と南足柄市との合併問題は2016年2月に突如として浮上。10月に二市の任意協議会を立ち上げ、8月まで協議が行われました。その協議結果をまとめた小冊子を市民に配布し、9月から10月にかけて市民説明会が開催。その後、市民意向調査としてアンケートが実施されました。



任意協議会が出した「南足柄市域を小田原市へ編入する編入合併」、南足柄市を小田原市の都心で「一方的」「消滅」させることになりました。

南足柄市は市長も、議会も、市役所もありません。旧南足柄市は急速に寂れることになるのではないだろうか。南足柄市の加藤修平市長は「市長としての強い意志と決意をもって『小田原市と南足柄市の合併』については合併すべきではないと判断しました」この状況を踏まえて吉田議員は、次の事を質問しました。

（1）人口減少や少子高齢化が進む中で、行政サービスの水準を維持するための、「究極の行財政改革」と言いつ、果たして市民の生活を守れるのか。
（2）合併は、住民自治・民主主義の後退と言えるのではないか。
（3）第五次小田原総合計画の後期基本計画は、合併を視野に入れることによって後退している。
（4）中核市への移行は小田原市で単独でも行うのか、新たな広域連携は検討していくのか等々二市合併が白紙になった時点で市長の見解を質しました。

る判断をしてまいりたい。広域連携については改めて検討していく必要があると考える。

市民ホール建設は市民参加でこそ良いホールが出来る

市民ホール建設が市主導で行われている中で吉田議員は、市民重視のホール建設と訴えました。2次審査公開プロゼンテーションの後、優先交渉権者が選ばれました。しかし、どのような案か選ばれないうちに、市民ホールの大事な補正予算を厚生文教常任委員会で審査。この手順は議会、市民軽視と言えるものではないでしょうか。そして、黒門劇場として、圧迫感のある黒色から、大屋根が灰色に変わりました。こんな設計変更は許されるのか。市では、大企業の建設業者に対して、しっかりと対応できるのか、建設費の大幅な増額を要求されるのではないかと、市の立場を質しました。

【答弁】優先交渉権者との交渉については、発注者である市を補助する「コンストラクション・マネジメント業務を委託する」。

小田原市と南足柄市との合併は破たん 中核市は市と市民の負担 本市は中核市移行をすべきではない



田中りえ子議員

【田中】南足柄市長は、南足柄市のアンケート結果等を受けて、合併しないと言、そのこと

【田中】「あなたは南足柄市との合併を推進することが望ましいとする市の考え方に賛同できますか」というたった1問の、本市が行ったアンケートは、民意誘導する内容となっている。そのため「賛同する」、「どちらか」というと賛同する」が約7割にもなったのではないか。

中核市は県からの事務量が大量で、職員が仕事に忙殺されるかのようなイメージがわからない。県の仕事は県が行うべき、小田原市は身の丈に合った市政運営をしていくべきと指摘し、中核市移行を取りやめるよう求めました。

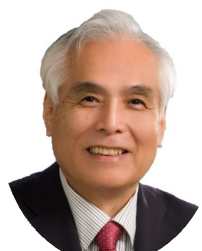


参加者が少なかった「合併に関する市民説明会」

【田中】「あなたは南足柄市との合併を推進することが望ましいとする市の考え方に賛同できますか」というたった1問の、本市が行ったアンケートは、民意誘導する内容となっている。そのため「賛同する」、「どちらか」というと賛同する」が約7割にもなったのではないか。

【田中】「あなたは南足柄市との合併を推進することが望ましいとする市の考え方に賛同できますか」というたった1問の、本市が行ったアンケートは、民意誘導する内容となっている。そのため「賛同する」、「どちらか」というと賛同する」が約7割にもなったのではないか。

小田原市内各駅のバリアフリー化促進



関野たかし議員

関野議員の質問は、「小田原市各駅のバリアフリー化の促進についてです。」

この法律に基づく基本方針では、1日の乗降客が3000人以上の駅を平成32年度までに、原則として、全てバリアフリー化することを目標としています。私としても平成12年12月小田原市議会本会議において、小田急線各駅のバリアフリー化を求めております。その後、小田急線では、栢山駅、富水駅、蛸田駅は平成18年3月に事業完了し、各駅のバリアフリー化が進んでいます。

【答弁】利用者が少ない駅の整備は、なかなか進まない状況にある。しかし、高齢者や障がい者に配慮した駅施設の整備は重要であるので、県をはじめ、県内市町村や経済団体により構成する「神奈川県鉄道輸送力増進促進会議」を通じて、鉄道事業者に対し、要望活動を進めていく。（実施状況は裏面表参照）

して生きる社会、高齢化が進む社会で、障がい者の方が安心して生きる社会が求められると思います。安心して交通機関を利用できるようにする事が非常に大切です。国としてもバリアフリー化を進めてまいりました。

平成18年12月には「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」が施行された。

【答弁】「あなたは南足柄市との合併を推進することが望ましいとする市の考え方に賛同できますか」というたった1問の、本市が行ったアンケートは、民意誘導する内容となっている。そのため「賛同する」、「どちらか」というと賛同する」が約7割にもなったのではないか。

議員提出議案第2号

「小田原市議会議員の議員報酬等に間する条例」に反対しました

議員報酬は、そもそも、職員給与に合わせて、引き上げたり、引き下げたりするような性格のものではありません。地方公務員の賃金が国家公務員や人事院勧告に準拠して決められるものに対して、地方議員の議員定数や報酬額は、自治体の予算、人口、面積、議員数など、その自治体特有の条件を基礎にし、住民要求を議会と行政にいかんにか反映しやすくするという観点を大事にし、さらに住民、市民の合意も得ながら決定されるべきものです。

現在、国、地方で議員の不祥事がいろいろ取りざたされています。

議員報酬についても同様に問われています。

こういう状況の中で、私達議員は、襟をただすべきだと考えます。

以上の理由で、議員提出議案第2号の反対討論とさせていただきます。



日本共産党の
無料法律相談
担当弁護士
岡村三穂
3月6日(火)
午後一時より
4月3日(火)
午後一時より
※予約制です。
相談される方は、関野、田中、吉田までお申し出ください。

法律相談・市政・生活相談は
下記へご連絡ください
TEL/Fax 住所
関野たかし 42-0316 曾我岸90
田中りえ子 35-5389 扇町1-6-2
吉田ふくじ 49-3759 南鴨宮3-9-8
(市役所 市議団控室 33-1789)
EX-IL(代表) tanakariko@nifty.com

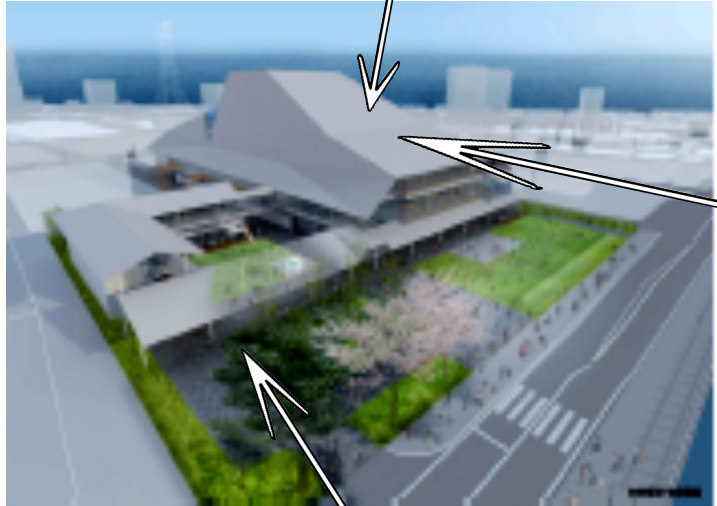
小田原市内の18駅のバリアフリー化状況

路線名	駅名	H27平均乗降客数(人/日)	バリアフリー化	事業開始	事業完了
複数路線乗入れ	小田原	190.298	○	H13.4	H15.3
	国府津	12.644	○	H21.4	H23.3
東海道線	鴨宮	25.702	○	H16.4	H18.3
	早川	2.812	×	—	—
	根府川	—	×	—	—
御殿場線	下曾我	2.614	×	—	—
小田急線	足柄	3.594	○	H19.4	H20.3
	蛸田	6.344	○	H17.4	H18.3
	富水	6.980	○	H16.4	H17.3
	栢山	9.452	○	H16.4	H17.3
箱根登山線	箱根板橋	2.552	×	—	—
	風祭	1.726	○	H19.1	H20.10
	入生田	1.062	○	H21.5	H22.2
大雄山線	緑町	400	×	—	—
	井細田	3.290	×	—	—
	五百羅漢	1.478	×	—	—
	穴部	1.368	×	—	—
	飯田岡	1.792	○	H14.4	H15.3
未整備等			8		

(関野質問表面末尾より続く)
①殿沢踏切の拡幅、安全対策を進めるべきと考えます。市として今後この様な取り組みをしていくのか。
②町田踏切の拡幅、安全対策をすすめるべきですが、現状と今後の取り組みについて伺います。
【答弁】殿沢踏切は、県道の改良事業として、県が事業主体として取り組んでいる。改良の条件となっている踏切の除却については、対象エリアを広げた中で、候補となる踏切を選定し、関係自治会との話し合いを進めているが、現在のところ合意に至っていない。町田踏切は踏切道改良促進法の改正により、平成29年1月に通学路の安全対策として、「改良すべき踏切道」に指定された。当面の対策として、近隣踏切の除却としない歩道のみを整備を行うことで関係自治会との話し合いがまとまり、鉄道事業者との協議を進めている。(御殿場線の線路部分を歩道として進める方向)
市民ホールについて使いやすい、質の良いホール建設を進める。優先交渉権者提案の問題について

伺います。
(一)質の良いホールとして、音響が秀れているのか、芸術文化創造センター実施設計では、音響は世界のトップレベルの永田音響が、大ホールの一席一席をシミュレーションした、すぐれた音響のホール設計でした。
今回の優先交渉権者のC案、鹿島建設・環境デザイン研究所のホール席の音響は、
①一席ずつシミュレーションしたのか。
②音響、残響時間は芸術文化創造センターに比べてどうか。
【答弁】今回の提案は、音響反射板使用時は1.7秒程度、幕使用時は1.4秒程度を目標、芸術文化創造センターの基本設計では、音響反射板使用時は1.5秒、幕使用時は1.5秒だった。
③音の振動等をほかの部屋に伝えず、遮音をするため、エキスパンションはどのようにしているか。
【答弁】大ホールと小ホールの間は、上部全体を完全に切り離すエキスパンションになっている。
④小ホールについては、正面入口から遠く、奥まったところにあるとみられ市民にとって使い

質問：形状は圧迫感を与えているのではいか
大屋根には屋外機置場が計画され景観を損なうのでは
答弁：1次審査での意見をお伝えし、対応したもの



屋根の色を黒(1次審査)から灰色(2次審査)に変えた

質問：テナント(飲食等)多目的スペースの建築部分は、事業費63億円に含まれるのか
答弁：事業費63億円に含まれておらず、外構等(8億円)の整備の中で対応をする

にくいのではないか。
【答弁】まちなかの回遊性の向上の観点から、利用率の高い小ホールを国道一号側に配置している。
(二)デザインの景観について伺います。
①形状は圧迫感を与えているのではないか、お堀端道りの大屋根には屋外機置場が計画されているため、実際には大屋根には大きな穴が開き、そこから屋外機が見えるようになるのではないか。お城の前という立地や歴史的な場所からして、景観を損なうものにはならないか。
②屋根の色を黒から灰色に変えたのは、なぜなのか。
【答弁】屋外機置場のために、屋根に大きな穴は開いていない。個別対話で1次審査での意見をお伝えし、対応したもの。
(三)今回、新たに提案されたが、テナント(飲食等)多目的スペースの建築部分は63億の建設費の中で、賄うのか、それとも、他の費用で賄おうとしているのか。
【答弁】この整備の費用は、事業費63億円に含まれておらず、外構等の整備の中で対応をする提案となっている。(左図参照)